



吉佐美にお住いの
山田 誠司さん・香さんの

むさし
長男 武司 くん (3歳10か月)

ぼくの名前はむさし！！
みんなからはむーちゃんって呼ばれてるよ♪
外で遊ぶことが大好きで、
自転車やサッカーをして遊んでいるよ♪
公園で見かけたら一緒に遊ぼうね！

みなさんのお宅のアイドルを募集しております。市役所へどしどしお寄せください！

先には造られた多聞天と持国天の二天は、平安時代の作と想定され、近世に入り増長天、広目天の二天を再興した際に、4軀合わせて彩色されたと考えられています。

これらの彩色部が剥落していることから、剥落止めを施すことが今回の主な修復内容です。

4月27日、市指定文化財「四天王像」が京都国立博物館内にある公益財団法人美術院の工房へ修復の旅へと出発しました。帰還は来年3月末の予定となっています。

今回の修復は、昨年度に実施した国指定文化財「大日如来坐像」の修復に伴い、これに随侍する四天王像を対象とした文化財保存事業です。

この四天王像の大きな特徴としては、制作された時期が異なっているにも関わらず、同じ場所に安置されている点が挙げられます。



市指定文化財 四天王像 (蓮台寺天神神社)

修復のため京都へ

本尊である「大日如来坐像」が鎌倉初期の作と考えられているのに対し、二天は前述の通り平安時代の作と想定され、市保護審議委員によると制作時期に50〜100年ほどの開きがあると考えられています。それにも関わらず、なぜ大日如来坐像にこの二天が随侍するようになったかは現在のところ分かっていません。

搬出作業は4月26日の午後から行われ、梱包作業では彩色の剥離が移動中に悪化しないように和紙で仮押さえしながら梱包し、車両に格納されました。



作業中の様子

公益財団法人 美術院とは

美術院の起源は、明治31年に岡倉天心が創設した「日本美術院」に遡ります。古社寺保存法に基づく国宝修理を実施し、百年以上にわたり国内の重要な文化財の保存に寄与してきました。

京都・妙法院三十三間堂の千躰仏(木造千手観音立像1001軀)の大修理や、奈良・東大寺南大門の木造金剛力士立像2軀の修理は、美術院を代表する事業です。

こうして培われた美術院の「木造彫刻修理」技術は、昭和51年に文化財保護法が定める「選定保存技術」第1号として選定されました。

このように、国内でも最高水準の保存修理を施し、来年3月には四天王像が蓮台寺・天神神社へと戻ってきます。

こうした貴重な機会を契機に、市民の皆さまの文化財に対する保護・保存への関心を高めていただければ幸いです。

取材協力

公益財団法人 美術院

問合せ先

教育委員会生涯学習課

☎ 5055

伊豆縦貫自動車道を早期完成しよう！！

「伊豆縦貫自動車道ロゴマーク」を利用して、伊豆縦貫自動車道の整備促進と活性化を県内外にPRしましょう！！ご利用方法については、以下の市ホームページをご覧ください。

■ 下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>



伊豆縦貫自動車道早期完成